

第 12 回エリア会議・討議要旨

【地域の活動について】

○夏祭りなど地域活動と情報発信

- ・活動取材や会合出席等ということで多くの事例が載っているが、その取材結果はどのようにして情報提供されているのか。ここまではもったいない。
- ・大イベントとしてハロウィンの他に夏祭りがある。まちができて 45 年、(各自治町内会それぞれ) 地域出身者の特色のある夏祭りになっている。夏祭りを一つの核として、洋光台ならではのアイデンティティをどう作っていくかが構築できれば。
- ・きちんと取材し、この地域にどういいう夏祭りがあるか情報提供も必要。
- ・開催日時はラブリー洋光台のホームページに出ているが、どのようなコンテンツを展開しているかは整理できていない。

○地域の人材

- ・(ハロウィンや地域活動など) 女性の活動団体の方々がうまく女性のネットワークでつないでいる部分もある。そうしたところで サポーターやファン層など、地道なネットワークをうまく構築できればと考えている。
- ・将来的には自立できるような組織になりそうか。
- ・一つ一つ(の団体)だと難しいので、少し支援できるような仕組みがあればと思う。
- ・先頭に立って活動しているのは大体女性。我々(自治会)は支援をしている。
- ・こういう人材ストックは重要。

○洋光(大)会議

- ・中学生、高校生、大学生など若い人たちが集まり開催した「洋光(大)会議」は貴重な機会。今後、どのような形で続けていくか話になっているのか。
- ・続けていこうということが一つと、年に 1 回ニュースを出したい、年末年始の洋光台駅前のイルミネーションについて、若者から意見を提言したいということもあった。
- ・以前 CC ラボに「帰宅部」があり、高校生が帰りに寄って勉強したりしていたが、そういうものを 復活することは難しいのか。
- ・この会議では評価が高いのでうまく展開できればと思う。
- ・地元から自分の意志で参加していることが、洋光台の子どもたちの会議の強み。そこが普通の大学生や高校生などが参加しているまちづくりとは違う点ではないか。

○洋光台・CC ラボのコミュニティの形

- ・コミュニティのなり手として、もともと地縁型があって、テーマ型があってという展開をしてきた。テーマ型は 90 年代の初めに見出したもので、それから 20 年以上経ち、その中に少し違うものが出てきているのではないかと感じている。それを少し類型化して、そういう活動をもう少し認識できるようにしたほうがいいのではないかと考えている。高齢者の問題もあれば、子育ての問題もあれば、子供の貧困の問題もあれば、様々な社会問題があるが、それが見えにくい状況にある。ハロウィンなども、大きな意味での包摂性をつくっていくベースだと思うが、直接、ニーズを持っている人のところに届くとか、ニーズを持っている人自身が自助の機会を得るなど、そういう部分が少し必要なのではないか。こういうコミュニティ活動は、そういうところに最終的

に届くようになって初めて意味があるのではないかと思う。ややイベント型のほうに寄ってきているので、もう少し違ったレイヤーの部分の少し見ていく必要があり、それは CC ラボの中にもこれまでもあったと思うが少し見えにくくなっている。

- ・恐らく、底辺にはそういう活動が洋光台にもあるのだろうと思う。
- ・「えんがわ」の活動のように、基本的にたくさんの人がずっと来ている活動は、長く続けていて、少しのテーマ性を持ってニーズがあって行われている。実はこうした活動が地元にはたくさんあり、非常に素晴らしい活動をされているので、どううまく連携していくかだと思う。
- ・端的に言うと、いろいろな人が、例えばこういう活動をしてみたいというときに、すっと入っていける入り口が見えやすいといい。

【第2回まちづくりアンケート結果について】

- ・平成 27 年の国勢調査の集計 が使える形になる。ベース部分の 11.7%のプロフィールが、リアルなものとのどのくらい違うかを分析すれば、どのくらいバイアスがかかっているか分析できる。クリティカルな答えには補正をかけて、本当はどのくらいかを見ることも一つの方法。
- ・まちで活動している方 や、特に「洋光（大）会議」の活動は面白い。そういう方々に還元できる出し方をしていないことが反省点。次の活動の参考にと伝わるところまでまとめたい。
- ・このアンケートの特色として記述が多いためテキストマイニングができる。
- ・マークシートとテキスト——定量的と定性的なものがうまくマッチングすれば傾向が見えてくると思っている。秋の会議ではもう少し具体的なものが出せる。
- ・テキストマイニングで、飲食店や店が足りないというのは、ある種、ニュータウンの特色ですが、前回も同じようなキーワードが出ていたのか。
- ・例えば子育て中のママが話して長時間いられる場所がないなど。コンビニは2軒、ファミレスも南に1軒、さらに遠いところに焼肉店があるくらいで、車で出かけないといけない状況なので、いろいろなご意見がある。店はたくさんあるが、たまり場になるようなお店がない。
- ・分析方向を変えてみたいという意見もあった。地元からこういう視点で見たい、アンケートを活用したいという意見があれば、事務局に寄せてください。

○設問～ブックカフェのイメージについて

- ・ブックカフェの設問はなぜ入っているのか。
- ・平成 25 年調査の自由意見に「図書館」というキーワードが多くあり、余剰地がないため整備はできないが、改修の中で本をツールにしたコーナーが設置できないかということでブックカフェとした。防災に関してはプラス・アーツ永田さんの意見を、ブックカフェに関しては BACH 幅さんの意見を、健康に関しては小泉先生の意見を聞いて設問を設定した。
- ・TSUTAYA のブックカフェのイメージで答えるツールと、それ近いものをこの立地の中でどうつくるか、具体化する際の困難性があるように感じた。
- ・藤沢にある TSUTAYA や代官山にあるものはイメージしておらず、小ぶりの形で洋光台ならではの提案をしながら、集まって本を読んで会話をすることができればいいと思っている。
- ・最近ではまちなか図書館といって、いろいろな形態・地域の特性を生かしたものがある。住民が自分たちでつくる図書館もある。「ブックカフェ」とすると間違えられるかもしれない。

【次世代スタイルワーキングからの提案について】

- ・提案は、特に場所が必要ではないものと、具体的に場所がわからないと展開できないものと、2種類に分けられる。特に場所の必要があるものに対するニーズは高いようだ。今後この北集会場をつくり替えることとドッキングする可能性があると考えていいか。
- ・うまく親和するものであれば実現したい。CC ラボでイベント的に行う方法もあるし、幾つか実現の手立てはあると思う。次世代スタイルワーキングは来年度が最終年度なので、何かしら目に見える形のものにしたい。期間限定かもしれないが一步は足跡を残しておきたい。
- ・No.4「みんなで使える自習室」は「洋光（大）会議」での話もあり ニーズが高そう。CC ラボを使い初期投資もあまりかからない、管理する人がしっかりすれば実現できそう だ。
- ・No.4 と「帰宅部室」がかみ合わさったものがあると非常にいい。第三小学校のコミュニティハウスの図書室は区内で利用率がダントツに高い。アンケートでは図書館希望という答えが出るし、昔からの傾向なので、図書室のようなイメージの自習室の実現も一つかなと思う。
- ・CC ラボ全体を図書室にするのでなく、その時に必要な図書が本箱1列にそろっていて、机が一つあり、来た人が座れる場所があるだけでもずいぶん違う。まちかど図書館では、地域の方が自分たちで本を持ち寄って運営しているところもある。手軽な形から始めるのが一番いい。
- ・これに関しては ニーズがかなりはっきりしていて、便益を受ける人もはっきりしている。制度上の問題等はこの枠組みを使って解決を図っていくといいと思う。
- ・若者向け図書館と高齢者向け図書館の2つを設置して、どれだけ本の種類が違うか皆さんで見合うとか、少し話題性を持った図書室的なものができるといい。
- ・「洋光（大）会議」では、CC ラボの2階（倉庫的に利用中）を自習室として使いながらでもと言っていた。「帰宅部室」はたまり場ではなく、そういうこともあっていいと思う。
- ・結カフェの空いている時間に入れ込める要素がある。実験的に行うのが簡単でいい。図書室は著作権はわからないが電子的なものだと大したスペースは必要ないと思う。
- ・「洋光（大）会議」のいろいろなアイデアを一つでも実現してあげないと、大人はうそつきと思われる。せっかくだから一つでも実現してあげたい。
- ・No.6の「洋光台のオススメスポットを共有するサイト」について、地域の主体的な健康づくりの活動に活用してもらえるような地図を実現しようと考えている。

○提案実現に向けて～学校との関係

- ・帰宅部室のような活動をするには、PTA も学校も同じ土俵にいないと、勝手なことをしていると思われる。学校への説明など地道な活動、外から埋める等いろいろな方法を考えなければ難しい。若者の活動を大人がコントロールするとおかしくなるので、そこはゆっくりと離れてみることを許容してもらえればと思う。CC ラボはいくらでも提供できる。
- ・この1年間で、学校の態度も変わった。1月に第一中学校の1年生 120 名に洋光台のまちづくりの現況を話した。最後に「洋光（大）会議」の参加を呼びかけたところ、会議に2人が参加し熱心に発言していて、子供同士での刺激を受けることも大事だなと思った。学校でも改めてまちづくり活動の話を評価したようだ。学校へ地域の人が行って話をするのはあまりなかったが、今までとは違ってきているので、またいろいろな意味で挑戦していくことかもしれない。
- ・南陵高校の校長先生も積極的でした。区域が港南区なので港南区のまちと付き合っていたが、駅利用など洋光台が生活圈なので洋光台のいろいろな情報が欲しいということだった。

【その他】

- ・横浜市で関わる「次世代郊外まちづくり」の4つのプロジェクトについて、旭区の左近山団地では、分譲住宅の広場の改修に関して、若い人たちを呼び込みたいということで、子供たちを含めた地域の交流の場を整備するため住民の方が手作りでコンペをされた。もうすぐそのコンペの整備に入る。相鉄いずみ野線沿線、南万騎が原では、駅の周囲に多世代向けの住宅（保育所と学童施設の上に若者向けの賃貸住宅）を整備。駅を挟んだ反対側は、サービス付き高齢者住宅を整備中で、駅前の便利なところは若い世代や高齢者に来てもらい、駅から離れた住宅地からの住み替えや、住み替えた後の活用など、いろいろな取組がある。洋光台の取組もとてもすばらしいので、別の団地のところにも紹介しながら、地域同士の交流の機会があればと思う。
- ・改修等、物事が動くときに、本日の提案等がいくつか組み込めれば一番いい。
- ・つくることによって、最終的にはどういう活動をするか、どういうまちにするか、それぞれのシーンについて特徴づけて整備していくことだと思う。

以 上